



主語と目的語を表す助詞

ポイント

1. 主語と目的語は、主語だけに助詞をつける。
2. 主語を表す助詞には「が」と「ぬ」があり、名詞の意味によって使い分ける。

1 主語と目的語

文を作る、大事な要素に「**主語**」と「**目的語**」があります。主語とは、主に動作をする人を表し、目的語とは、主に動作をされる人やものを表します。例えば「太郎が水を飲んだ」という文では、「太郎」が「動作をする人」なので主語、「水」が「動作をされるもの」なので目的語です。日本語では、主語に「が」、目的語に「を」という助詞をつけます。（なお、このテキストでは、他の言葉と区別するために、助詞の前に「=」をつけます）

日本語

(1) 太郎 = が 水 = を 飲んだ
主語 助詞 目的語 助詞

では、しまむにではどうでしょうか？しまむにで同じ文を言うと

しまむに

(2) 'たろー = が みじ ぬだん
太郎 = が 水 飲んだ

となります。主語の「たろー（太郎）」には「が」という助詞がついていますが、目的語の「みじ（水）」には「を」にあたる助詞が何もついていません。

もう一つ、似ている文「お母さんが私を呼んだ」をみてみましょう。

(3) あま = が わん あびたん
お母さん = が 私 呼んだ

やはり主語の「あま（お母さん）」には「が」がついていますが、目的語の「わん（私）」には、「を」にあたる助詞がついていません。

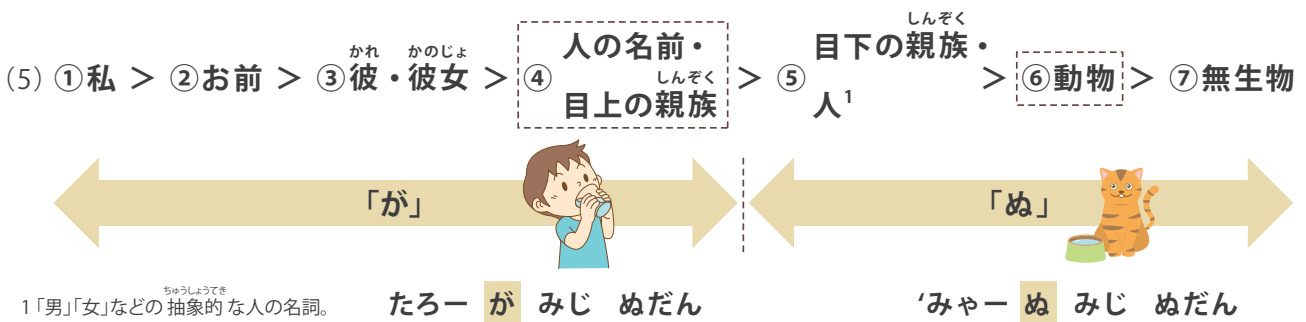
このように、しまむには主語と目的語のうち、主語だけに助詞（「が」など）をつけます。

2 主語を表す助詞のつかいわけ

さて、さきほど「しまむにでは、主語だけに助詞をつける」と言いましたが、主語につく助詞には、実は「が」と「ぬ」の2つの形があります。先ほどの「たろーが みじ ぬだん」では、主語に「が」がついていますが、同じ文でも「水を飲む」のがネコになった場合は、(4)のようになり、主語の「みゃー(ネコ)には「ぬ」という助詞がつきます。

(4) 'みゃー = **ぬ** みじ ぬだん
ネコ = が 水 の 飲んだ

では、この「が」と「ぬ」はどのように使い分けられているのでしょうか？この使い分けは「有生性の階層」という言語学の理論で説明できます。「有生性の階層」とは、簡単にいうと「名詞を(自分に近い)生き物らしい順番にならべたもの」で、しまむにでは、(5)のようになります。



そして、主語が「人名・目上の親族」より左の名詞のときは、助詞に「が」をとり、それよりも右の名詞のときが「ぬ」をとります。先ほどの「太郎くんは人の名前なので「が」をとりますが、「ネコ」は動物なので「ぬ」をとると整理できます。

このように、しまむにの主語の助詞には「が」と「ぬ」がありますが、前の名詞の意味によって、2つを使い分けているのです。

練習問題

下の語を使って、(1)~(3)の文を、しまむにに直してみましよう。

| | | | |
|--------|----------|----------|----------|
| わん(私) | あちゃ(父) | いんが(男) | わー(豚) |
| めー(ご飯) | かだん(食べた) | みちゃん(見た) | ぬだん(飲んだ) |

(1) お父さんがご飯を食べた。 (2) 男が私を見た。 (3) 豚が水を飲んだ。